

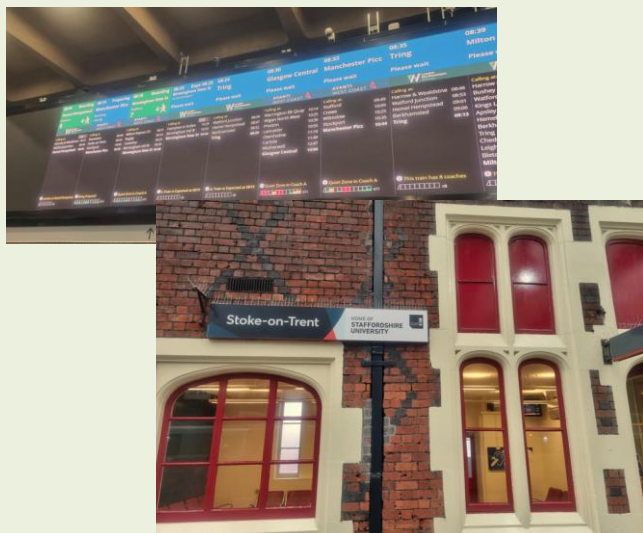


## 陶磁器の郷 ストーク・オン・トレント ～ポッターリー・トレイル～



年末も近いある日、イギリスらしい何かを探して出かけようとふと頭に浮かんだのが「陶器産業の里」と称されるストーク・オン・トレントだ。ロンドンから直通列車で片道約1時間半だから日帰りで行くにも都合が良い。年の瀬で、もしかしたら陶磁器の掘り出し物に出会うかも、などと思いつつすぐに列車を予約した。

この街はイングランドのミッドランド西部のちょうどマンチェスターとバーミンガムの間にある。という、かなり遠いところといった印象も受けるが、ロンドン・ユーストン駅を8:13に出発し、コーヒーとクロワッサンなど食べながら携帯をいじっていると9:43には到着してしまうという案外手軽に行けるところだ。



私が最後にストーク・オン・トレントを訪れたのは2017年。当時は弊社でも列車で往復する安いツアーがあり、イギリス製陶磁器の窯元を訪ねたいというお客様からしばしば問い合わせがあったものだ。日本からイギリスを訪れる方にも、また駐在でイギリスに来られたばかりの方にもストーク・オン・トレントの名前は通じなくとも陶磁器産業が盛んなところと知られていた。その頃からこの街は、お天気がどんなに良くても街全体がくすんだグレー～茶色で、昔の工業地帯の面影があった。今来てみると駅前の再開発が進み、大学 (University of Staffordshire) の壮大なキャンパスの造成が進んでいることが分かった。ガラスを多用した近代的な教育センターや学生のためのアコモデーションが次々と建設され、工業の街から大学都市への発展を遂げようとしている。一方で、今でも昔ながらのスタイルで製陶業を営むところでは、数十年～数百年の間変わらないような風景も見られ、伝統産業ときらきらした大学街とに街が二極化している様子が窺えた。



《ストーク駅前ウェッジウッド銅像2017年当時》

陶磁器の窯元 (厳密に言うと過去に窯元だったところも含む) はストーク・オン・トレント内に点在している。以前の記憶では、窯元をつなぐシャトルバスではなく、また地域内の公共交通機関も不便なので現地のタクシーを使うしかないという、まさに外人観光客にはアンフレンドリーな地だった。実際には今もシャ



トルバスではなくローカルバスの便も良くなってはいなかったが、UBERの普及のおかげで帰路の迎えをそれほど気にしなくてよくなったところが大きな変化といえる。以前は駅前のタクシー乗り場からタクシーに乗りその車に迎えを頼んだり、自分でタクシー会社に電話して呼んだりしなければならなかった上、本当に迎えにくるのか不安な気持ちで待つしかなかった。それと比べると、ずいぶん便利になったものだ。この日はバーレイ (Burleigh) を製造するミドルポート・ポッターリー、スポード (Spode)、エマ・ブリッジウォーター (Emma Bridgewater)、ウェッジウッドという代表的な4カ所を1日で回ることにした。できる限り公共交通機関で、どうしてもないところはUBERを使うことにする。果たして時間内に全部回りきれものなのか、ポッターリー・トレイルの始まりだ。

最初に訪れるミドルポート・ポッターリーはストーク・オン・トrent駅からそう遠くはないところにあるのだが、直通のバスがなく乗り継ぎすると小一時間かかる。ローカル電車を使うと20分ほどと分かったので、今回はこれを試してみることにした。ストーク・オン・トrent駅到着後、約15分後に出る電車（ウェスト・ミッドランド・レイルウェイ）で約5分、最寄りのロングポートという駅で降りてひたすら住宅地の中を歩くこと約15分。低層住宅が連なる奥の方にポッターリーの高い煙突が突き出ていて目印になる。近づいて行くと運河沿いにレンガ造りの古びた工場が数百年前の姿のまま立っているのが見えてきた。



1851年に設立された「バーレイ」の前身の陶器メーカーはその後Burgess とLeighという2人の男に引き継がれ、1889年に現在の場所に拠点を移した。「バーレイ」のブランド名はこの2人の名前に由来するらしい。このビクトリ時代の工場は歴史的な重要建造物の指定を受け、現在でも当時の姿のまま保存されていて現役で稼働している。当時はこの工場で作られた完成品は陸路で搬出されるほかに、工場に隣接する運河からイングランド西部の港へ運ばれ、海外へも輸出されたという。イギリスでは18世紀の産業革命を契機に運河が拡大し舟運が発達したが、ストーク・オン・トrentには複数の運河があって、このポッターリーに限らず製陶業に必要な材料の土や燃料、完成品の運搬に使われていた。





ミドルポート・ポッターリーではビクトリア時代当時のオフィスをもそのまま再現した小さな博物館がある。ここでは時代ごとの製品の展示や伝統的な製造方の動画も見られる。また、ボトルオープンという独特の形の釜の内部やモールドと呼ばれる様々な形の型が置かれた倉庫（欧州一のコレクションだそうだ）、1888年にできた従業員用の浴場跡など歴史的な製造サイトも見学できる。この博物館と歴史的サイトの見学を合わせたハリテージ・トレイルは毎日やっているほか、月～木には実際の製造工程が見れるファクトリーツアーもある。



- ♪ 《ミドルポートポッターリー ボトルオープン仕組み》
- 《ミドルポートポッターリー ビクトリア時代オフィス》

《ミドルポートポッターリーマップ》





バーレイと言えば可憐なプリント柄が有名だが、何と今でもビクトリア時代当時の技術が引き継がれているようだ。銅板転写と呼ばれるその技術は、柄が彫られた銅板にインクを載せてまず薄紙に写し、その薄紙を素焼きの陶器に貼り付け、ブラシと柔らかいソープを使ってひとつひとつの柄を押し付けて転写していくという繊細な作業だ。現在では唯一バーレイだけがこの伝統的な手法を使って製作しているのだそうだ。どことなく懐かしさを感じさせるバーレイの製品は、こんな昔ながらのやり方が使われているからなのかもしれない。



バーレイでの目玉は何とんでも充実したファクトリーショップだろう。ファクトリーショップの上階は最新のラインも並ぶショールームになっているが、多くの人のお目当てはお手頃な値段で買えるセカンド品だ。セカンド品と言っても分かる人でなければ分からない傷や模様の乱れ、生産中止になった品などで、正価品にひけをとらない。広いグランドフロアー面、ラインごとに山ほど商品が陳列されていて誰しも目を奪われる。正価の20~30%引きがほとんどだが、その時によってさらに50%以下にまで値下げした物があったりする。じっくり掘り出し物を探すには余裕を持って訪れることをお勧めする。敷地内にあるバーレイの食器でサーブされるカフェにも立ち寄りたかったが、今回は時間切れで諦めた。



後ろ髪を引かれながらミドルポート・ポットリーを後にし、電車でストック・オン・トレント駅に戻る。次なる目的地はスポード (Spode) だ。スポード自体は2009年に倒産しており、現在はポートメリオン社に引き継がれている。駅から徒歩15分くらいのところにある広大な工場跡地があって、その一角に小さな博物館とショップがある。この工場跡地はスポード倒産後に大掛かりな整備がなされ、歴史的な重要建造物である工場棟はカフェ・レストランやホテルの複合施設 Spode Works に生まれ変わった。博物館に入ると、時代ごとに変遷したスポードの製品の数々や昔の転写の機械、古くからの従業員の写真などが展示されていた。この日は、リタイアしたスポードの元デコレーターのDavidさんがいて絵付けのデモンストレーションも見られたほか、昔の仕事場の様子のお話も聞くことができた。



スポードは1770年創業の陶磁器メーカーで、銅板転写の技法の開発や強度の高いボンチャイナの開発などで知られる。博物館では金ばくを使った装飾品や普段使いではない豪華な模様の様々な食器が多く展示されていて、また元職人のDavidさんのデモンストレーションも手作業によるカラフルで繊細な作品だったが、スポードと言えば何とんでも白地に青の古典柄を思い浮かべる人が多いだろう。西洋と東洋が融合したかのような図柄のブルー・イタリアンシリーズは1816年から現在まで続いている人気のラインだ。



博物館を進んでいくとアウトレットショップに行きつく。ここには、スポードの商品を中心に所狭しと様々な大きさの食器が並んでいる。中にはビンテージやアンティークに相当する品があったり、セット物もや一点物まで多くの種類の製品があり、スポード好きの人にはたまらないだろう。なぜかウェッジウッドやミントンなど他社製品まであって、お手頃な値段で思わず手が出そうになる。スポード博物館は入場無料、駅から徒歩圏内で行きやすいのだが閉館が16:00と早いので注意が必要だ。



次に向かったのはエマ・ブリッジウォーター。スポード博物館近くのバス停（いくつかあり）から1本で約20分ほどでファクトリーに到着する（コンタクトレ

スカード使用可）。ここには工場のほか、体験コースを提供するワークショップ、最新のラインが並びショップとアウトレットショップ、カフェがある。大きな専用パーキングもあるので自家用車で行くにはありがたい。



華やかな色使いと大胆な柄が特徴のエマ・ブリッジウォーターは、カジュアルに日常使いできるデザインでイギリスでは若者から年配の方まで幅広い層に人気がある。代表的な柄はカラフルな水玉模様で、「洗練された」というよりはイギリス人が憧れるカントリーサイドの暮らしを彷彿させるほのぼのとした作風に思える。この日は平日にも関わらず、建物の中はミドルクラス風のカップルや家族連れがまるでレジャーでにでも来ているような感じで、先に訪れた2か所とは全く異なる。大型の駐車場を備えているのも、このような客層が国内から自家用車で訪れることを想定していることだろう。





入口を入ったところにあるショップでは、最新のラインや人気の図柄の商品が正価で並んでいる。この日は年末近かったせいもあるがセールもやっていた。アウトレットショップもあるはずだが館内のどこにもその案内が出ておらず不思議に思っていたのだが、ショップから中庭を眺めていたら中庭の向う側に小さく「ファクトリーショップこちら」の表示があるではないか！気づいた人達は次々と正価品のショップを出てアウトレットショップに向かっていくので私もそれについて行くことにした。

アウトレットショップはまるで業務用スーパーのように広いフロアに棚が整然と並び、そこに様々な商品が単に並べられている。表のショップとは違ってデコレーションがあるわけではなく、SALEの垂れ幕があるのみ。しかし、陳列されている商品の数と思ったら正価品のショップの5倍はあるのではないかなと思うくらいだ。価格は商品にもよるが、正価の30~40%引きで売られていたように思う。見たところ、こちらの方が表のショップより盛況な感じで、買い物する人の買い上げ量も格段に多い。



一方、カフェは村のティールームといった感じで、レトロなインテリアでまとめられておりエマ・ブリッジウォーターの食器とうまくマッチしている。コーヒーや紅茶、ケーキ類のほか軽食や食事がとれる。出てくる食器はバラバラの柄の組み合わせなのだが、なぜか統一感のある演出が素敵だった。お手頃な値段で中身も秀逸だったアフタヌーンティーは予約必須だ。(£22.50)



工場見学やデコレーション体験、これらとカフェでのブラックファストやアフタヌーンティーのパッケージなどがあり、買い物と合わせて半日楽しめる。

腹ごしらえをしたところで、最後に大御所のウェッジウッドに向かう。ウェッジウッドのあるバーラストンは今回の訪問先の中では唯一外れたところにあって、エマ・ブリッジウォーターから行くにはタクシーで行くしか手はない。UBERで片道20分くらいだった。「ワールド・オブ・ウェッジウッド」と名付けられた複合施設は、カントリーサイドの雰囲気溢れる広大な敷地内にある。メインの建物には工場とワークショップスペース、ショールーム、ティールームが入っていて、このほかにウェッジウッドのデザインと歴史に特化した175,000点を展示したV&Aコレクションも併設されている。敷地内の別棟にはアウトレットショップ（ウェッジウッドはほんの少しだけ）、バー、小物ショップなどもあった。



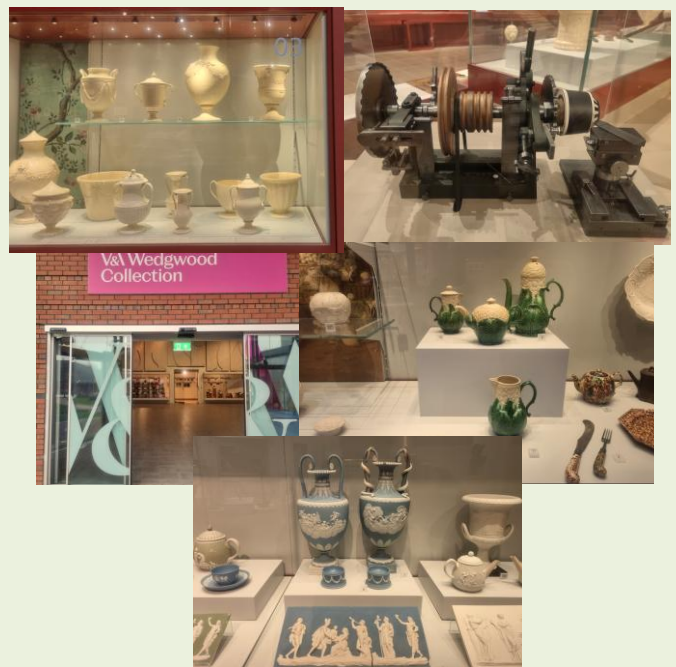


ここでは工場見学（£14）のほか絵付けやろくろ回しのワークショップなどもあるので、ショールームでのショッピングやV&Aコレクションでの鑑賞と合わせると1日楽しめる感じだ（工場見学とワークショップ

は予約要）。この日は工場見学はなく、アクティビティもすべて終わっていたので、V&Aコレクションを見た後にショールームで商品を見て回ることにした。17:00閉館なので約1時間半の滞在だ。



ウェッジウッドは18世紀半ばにジョサイア・ウェッジウッドにより創設された。ウェッジウッドは製陶技術の研究に余念がなかったそうで、当時のシャロット王妃に献上したクリーム色の陶磁器「クリームウェア」やストーンウェア「ジャスパー」ほか他のメーカーに勝る商品開発が次々と功を奏し、業界でも突出した存在となった。また、国内や国外での販売に向けてカタログやダイレクトメールを使った販促、送料無料や返金保証といった今では当たり前の手法もすでに始めていたという。V&Aコレクションではこのようなウェッジウッドの功績や当時の記録、作品などが山と展示されている。陶磁器好きでなくともこれだけのものが無料で見られるのは嬉しい。じっくり見て回るなら2時間は欲しいところだ。





広くて明るいショールームではワイルド・ストロベリーをはじめとした人気のラインや新商品がきれいに陳列されている。ここで扱うのは基本的に正価品のみだが、年末だったので多くのものがセールになっていた。買い物重視で行くなら、クリスマス前辺りから年末までがセールの狙い時かもしれない。



ショールーム奥にある美しいティールームではウェッジウッドが使われている。今回はコーヒー杯飲んだだけだが、ここのアフタヌーンティーは人気が高い (£32.50)。周りの老若の女性グループの多くがアフタヌーンティーを楽しんでいた。お手頃な価格なのにウェッジウッドの食器でサーブされると気分が上がるものだ。



ウェッジウッドも17:00で閉館となり、UBERを使ってストーク・オン・トレント駅へ向かう。夕方のラッシュも懸念されたが15分ほどで駅に到着 (約£15)。18:10発の列車でロンドンへ。19:41にユーストン着。駆け足ではあったが、それぞれに異なる4か所を正味8時間半で周ることができた。ストーク・オン・トレントに行くなら、買い物に重点を置くのか、陶磁器にまつわる歴史や変遷を知りたいのか、体験をして

みたいのかなどテーマによって過ごし方が変わってくる。日帰りなら、自身の興味や関心によって2カ所くらいに絞ると無理なく楽しめるだろう。私自身は、今回は掘り出しもの探しとアフタヌーンティーに絞って再訪したいと思っている。

#### 参考データ

◇列車 Avanti West Coast

往路 8:13/9:43 ユーストン発 / ストーク・オン・トレント着  
復路 18:10/19:41 ストーク・オン・トレント発 / ユーストン着

◇コスト (2025年12月20日時点)

列車: London Euston ⇄ Stoke on Trent 往復£75.79  
Stoke on Trent ⇄ Longport 往復£7.20

バス: Spode Factory ⇒ Clifford Street 片道£2

UBER: Emma Bridgewater Factory ⇒ World of Wedgwood 片道£15

World of Wedgwood ⇒ 片道£15

Middleport Pottery Heritage Trail £7

#### ◇各窯元情報

Middleport Pottery (Burleigh) <https://www.burleigh.co.uk>

Port Street Burslem Stoke-on-Trent ST6 3PE

Opening times: 10am to 4pm, 7 days a week / Factory Shop: Tue to Sun 10am to 4pm

Spode Museum & Shop <https://spodemuseumtrust.org>

Elenora Street Stoke Staffordshire ST4 1QD

Opening times: Wed to Sun 10:30am to 4pm

Emma Bridgewater Factory

<https://www.emmabridgewater.co.uk/pages/factory>

Lichfield Street, Hanley, Stoke-On-Trent, ST1 3EJ

Opening times: Mon to Sat 9am to 5pm / Sun 10am to 4pm

World of Wedgwood <https://www.worldofwedgwood.com/>

Wedgwood Drive Barlaston Stoke-on-Trent Staffordshire ST12 9ER

Opening times: 10am to 5pm, 7 days a week

※マイバスでは、お好みに合わせたプライベート観光のお手配もしています。ストーク・オン・トレントに行ってみたい方、アシスタント同行のショッピングツアーやガイド同行でじっくり製陶の歴史や窯元について知るツアーなどアレンジ可能です。お問合せください。

Email: [info\\_uk@mybus-europe.com](mailto:info_uk@mybus-europe.com)

Tel: 020 3167 9197 (Mon-Fri 10:00-17:00)

JTBヨーロッパ マイバスUK 北出泉子